

伝えよう読書のよろこび 広げよう感動の輪



編集・発行 愛媛県読書グループ連絡協議会

令和5年度 愛媛県読書グループ連絡協議会 総会並びに読書推進大会

令和5年5月31日
にぎたつ会館

「令和5年度愛媛県読書グループ連絡協議会総会並びに読書推進大会」が5月31日(水)に松山市道後姫塚のにぎたつ会館で開催され、県内各地から読書グループ関係者、読書教育関係者、読書愛好家等88名が集まりました。

【総会】

森川会長を議長として、令和4年度の決算報告や令和5年度の事業計画、予算等の議案について事務局から説明し、すべて承認されました。

【読書推進大会】

前半は三島読書グループ連絡協議会(四国中央市)と内子町立小田幼稚園(内子町)の事例発表、後半は作家の柏木伸介氏にご講演をいただきました。

本大会は、県内各地で読書活動を推進している方々の実践や、著名な方々の講演に学べる貴重な機会です。ご興味のある方は、ぜひご参加ください。



右：森川 啓子 県読連会長
左：豊田 益実 愛媛県立図書館長



参加者でにぎわう会場の様子

読書推進大会講演会 「ある小説家の読書遍歴」

かしわぎ しんすけ

講師：柏木 伸介 氏 (作家)



作家の柏木伸介氏に「ある小説家の読書遍歴」と題し、ご講演をいただきました。柏木氏は、平成29年に小説『クルス機関』が第15回「このミステリーがすごい！」大賞の優秀賞に選ばれ、同作品を『県警外事課クルス機関』と改題しデビューしました。

講演では、幼少期から学生時代、そして社会人時代から作家になるまでの御自身の読書遍歴をお話されました。読書によって得た知識や情報が作家活動に活かされているということについて、具体例を示しながら実感を込めて語られ、参加者を惹きつけていました。

読書推進大会 事例発表①

「民話を語る」

三島読書グループ連絡協議会（四国中央市）

鈴木 久美恵 氏（代表）

真木 宏光 氏・真鍋 あつ子 氏（語り）

三島読書グループ連絡協議会は、昭和39年から続く歴史あるグループです。グループのこれまでの歩みと、令和元年度から取り組んでいるこども文化未来づくり事業「民話を語る」についてご発表いただきました。人間の様々な側面や、郷土の歴史が詰まった民話を、子どもたちに語り継ぐ意義ある活動で、大変参考になりました。地元の民話の語りもご披露いただきました。



読書推進大会 事例発表②

「絵本を通して」

内子町立小田幼稚園（内子町）

山本 絵梨子 氏（代表）

内子町立小田幼稚園の事例発表では、絵本の読み聞かせと手作り絵本「おだっこえほん」についてご報告いただきました。読み聞かせは、絵本サークルの活動や、ファミリー参観日での父親による読み聞かせ等、熱心な様子が伺えました。また、令和2年度から始まった「おだっこえほん」は、各家庭で絵本を手作りするというもので、子どもだけでなく保護者も楽しんで参加している素晴らしい取組でした。



『栗山ノート2 ～世界一への軌跡～』

愛媛県読書グループ連絡協議会
会長 森川 啓子

日本代表「侍ジャパン」が、2023WBCで世界一となった瞬間の感動を思い出しながら、『栗山ノート』を読んだ。

個性の強い選手たちが集まり短期決戦に挑む中、チームとしての結束力が固まったのは、間違いなく栗山監督の言葉や人間性にあった。

利他の心で謙虚に取り組むという姿勢が、「ノート」に綴られた先人の言葉や人生訓から読み取れる。「尽己（自分の出来ることをやり尽くす）」の思いで、「世界一になる」と力強く宣言して引き受けた監督。

「優勝したい」と「絶対優勝する」では、全くプロセスが違う。優勝するために、今自分は何をすればいいのかと思う時、知恵が生まれると言う。

世界一を目指す姿が、子どもにも大人にも、夢や元気、勇気を感じて貰えるならば、侍ジャパンとしての意味がある。

「出来るか出来ないか」ではなく、夢に向かって「やるかやらないか」だ。深く力強い言葉が、人生の応援歌として心に沁み込んで来た。

「閉架図書には魅力的な本がたくさんあります。」

愛媛県読書グループ連絡協議会 顧問
愛媛県立図書館長 豊田 益美

図書館の蔵書は、館内に配架している本（開架図書）だけではなくありません。来館者の目に触れない書庫に置いてある本（閉架図書）にも、魅力的な本が多数あります。一部の貴重な本以外は、貸し出しが出来ますので、ご利用ください。まさに書庫は宝の山なのです。

蔵書検索で、閉架図書から『リッツ・カールトンが大切にサービスを超える瞬間』という本を見つけました。リッツ・カールトンホテルは、中規模ながら世界中の豪華有名ホテルを抑えて常にトップレベルの評価を受けています。その秘密を解説している本です。例えば、大阪で宿泊した大学の先生から、「今晚、東京の講演で発表する原稿をホテルに忘れてしまった。何とかならないでしょうか？」と相談がありました。FAXでは人目に触れるし、宅急便では間に合わない。この場合、従業員が大阪から新幹線に飛び乗り、東京の講演会場まで直接原稿を届けたのだそうです。もちろんこれはホテルの無料サービス。お客様自身も気づかない願いを先読みして、驚きと感動を与えるホテル。同じサービス業である図書館も、この精神を見習いたいものです。

～「県読連」のご案内～

名称：愛媛県読書グループ連絡協議会 略称 県読連（けんどくれん）

発足：1964年（昭和39年）12月。今年で設立59年。

目的：県内読書グループ相互の提携を図り、読書活動を推進するとともに、文化の発展に資すること。

会員：194名（令和4年度末）

県内読書グループに所属する方や読書愛好家の方（会員募集中）

活動：スローガンは「伝えよう読書のよろこび、広げよう感動の輪」。読書推進大会の開催、読書通信を発行。

問合せ：県読連事務局（愛媛県立図書館内）

〒790-0007 松山市堀之内 TEL 089-941-1441 FAX 089-941-1454

https://lib.ehimetosyokan.jp/about/page_id174